

環境と有機化学

科目到達目標:①様々な環境問題について、現状と将来展望を理解し、自分の考えをもつ。②環境汚染の発生機構を科学的観点で理解する。

科目責任者(所属):高村 歩美(生体制御学)

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
1	11/29(火)	1	231	人間の活動と環境変動	高村 歩美	生体制御学	人間活動が環境に及ぼす影響を理解する。	環境科学、人口増加、典型七公害
2	12/6(火)	1	231	環境変化にともなう異変	高村 歩美	生体制御学	地球規模で発生している環境異変について理解する。	生物多様性、気候変動、バーゼル条約
3	12/13(火)	1	231	大気汚染	高村 歩美	生体制御学	大気汚染の破壊のメカニズム、および現状と将来展望を理解する。	温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、アスベスト
4	12/20(火)	1	231	水質汚染・土壌汚染	高村 歩美	生体制御学	水質汚染・土壌汚染の破壊のメカニズム、および現状と将来展望を理解する。	河川・湖沼・海洋汚染、人為的・自然的起源の土壌汚染
5	12/27(火)	1	231	化学物質による汚染	高村 歩美	生体制御学	化学物質による汚染のメカニズム、および現状と将来展望を理解する。	有機塩素系化合物、有機リン化合物、有機スズ化合物、有機フッ素化合物
6	1/10(火)	1	231	廃棄物問題	高村 歩美	生体制御学	廃棄物問題の原因、および現状と将来展望を理解する。	廃棄物の種類・量・処理、廃棄物のリサイクル
7	1/17(火)	1	231	汚染物質の毒性と生体内での代謝	高村 歩美	生体制御学	過去に問題となった重金属、化学物質の生体内での毒性発現機構について理解する。	薬物代謝酵素、毒性評価法
8	1/24(火)	1	231	内分泌攪乱物質	高村 歩美	生体制御学	内分泌攪乱物質が生体に及ぼす影響について理解する。	内分泌攪乱物質、SPEED98、ExTEND2005・2010

教育グランドデザインとの関連:1, 3, 7

学位授与の方針との関連:1, 2, 3

評価: 授業態度 30%、レポート 70%

教科書: 自作のプリント

参考書: 環境科学入門(化学同人)